

技術経営会議 第75回本会議概要

技術経営会議第75回本会議は、去る8月26日（金）、ホテル・グランドパレスにおいて、ゲスト、会員代表者、名誉会員、会友、キーマン、TMならびにご夫人等110余名の参加をえて盛大に行われた。

今回は、3.11の大震災のために、諸般事情を勘案し、例年の箱根2日開催を東京1日開催に変更して実施した。また、篠塚議長が再任され3期目（任期2年）を務められることになった。



篠塚議長ほか議長団

◆議長挨拶：篠塚 勝正氏（沖電気工業㈱ 取締役会長）

◆本会議議事

- a. 活動報告
- b. 決算報告
- c. JATES 活動紹介
- d. 議長選出
- e. 次期運営委員の選任

第31期の運営委員（任期1年）の改選については、5人の新任の方を含め承認された。引き続き、新運営委員による臨時運営委員会が開催され、矢野 厚氏が第37代副議長に、今井 光雄氏が会計監査に選任された。

□メンバースピーチ

テーマ：「横河電機のグローバル事業展開と研究開発の新しい姿」

講師：白井 俊明 氏 横河電機(株) 常務執行役員 研究開発本部長

概要：計測・制御・情報を技術の核として産業オートメーション機器を提供する横河電機は、製造業の新興国シフトとともに事業のグローバル展開を加速してきた。一方、顧客である製造業では、社会のメガトレンドの中で、従来の延長線上にない大きな事業構造の変化が予想される。こうした変化を先取りすべく、将来の事業基盤を担う研究開発のあり方を再構築してきた。その考え方、苦勞を披露された。

□諸活動の報告

○ 産業構造転換研究専門委員会報告と討議

報告者：新委員長 渡辺 尚生 氏 東京ガス(株) 常務執行役員

○ 環境・エネルギー専門委員会報告と討議

報告者：委員長 川上 潤三 氏 (株)日立製作所 名誉顧問

○ 産業競争力強化委員会報告と討議

報告者：委員長 広崎 膨太郎 氏 日本電気(株) 特別顧問

○ 新規テーマ：ソフトウェアとサービス懇談会

報告者：座長 村野 和雄 氏 (株)富士通研究所 常任顧問

□パネル討論会：『震災後の日本型新社会モデルを探る』

パート1

テーマ：趣旨説明

講師：座長 矢野 厚 氏 住友電気工業(株) 常務取締役、技術経営会議 副議長

概要：我が国は、長期のデフレに陥っている。また、巨額の財政赤字を抱え国家基盤も危うい。これは戦後の日本型の産業・社会モデルが、不適合を起こしているということである。国内は、政治的なリーダーシップの欠如、製造業でよく言われる六重苦等待ったなしの抜本改革をしなければならない状況になっている。一方、海外は、欧州財政危機、アメリカ経済の陰り、新興国のインフレ問題や、中近東、リビアの政治的騒擾等先行きが非常に不透明である。こういうことを含めて様々な角度から日本の新しい社会モデルをご議論いただきたい。

テーマ：「三度目の奇跡の必要条件」

講師：堀井 秀之 氏 東京大学大学院 工学研究科 教授

概要：東日本大震災は日本に起こりつつあった、あるいは、起こるべきであるパラダイムシフトを顕在化させた。このパラダイムシフトは、明治維新、戦後復興に匹敵する。三度目の奇跡が日本に起こりうるとすれば、その必要条件とは何であろうか。三度目の奇跡は、過去の奇跡と無縁ではない。キーワードは、リーダーシッ

プをもって人間中心のイノベーションを創出できる人材の育成であり、経団連大学等設置するのも一案である。

テーマ：「消費者の信頼で築く日本経済」

講師：谷 みどり 氏 経済産業省 商務流通グループ 消費者政策研究官

概要：経済の根幹である私たちの消費を、民間所得を増やし国民の幸福を増進する健全な事業、事業者に戻すべきである。その方向としては、付加価値の増えないエネルギー部門への投入を出来るだけ減らす。地味な介護等での技術開発の促進。そのための女性をはじめ多様な視点の活用。悪質業者の排除、安値過当競争からの脱却等が必要。製造業には、女性の視点等も入れて市場を直視し技術開発を加速してほしい。

テーマ：「震災後の日本改革の方向」

講師：ロバート・フェルトマン 氏 モルガンスタンレー MUFJ 証券(株)経済調査部長

概要：日本の財政赤字の元凶は社会保障費の急増にある。一方、震災後のエネルギーは、脱化石、脱原発が不可避である。2060年までに脱化石、脱核燃料を達成するためには、再生可能エネルギーを年5.8%拡大していくことが必要。死に物狂いの技術革新、各種予算シフトが不可欠。しかし、現状の高齢者に有利な票配分をベースとした選挙制度では社会保障の削減はできず政策転換は不可能。参議院2人制(準大統領)や若者へ3、4票与える等の選挙制度「技術」の革新が不可欠である。

パート2



後半パネル討論風景

概要:前半メンバーに加え、広崎 膨太郎氏(日本電気株特別顧問)が参加し、3つの論点を中心に討論した。①「人間・消費者中心のイノベーション」については、これからは「目的創り」がポイントで、それには 技術を知っている技術者が有利である。消費者の苦情は宝の山である。イノベーションの概念には利益が不可欠である、等の意見があった。②「ポスト・フクシマのエネルギービジョンエネルギービジョン」では、本当のコスト、新興国等との競争、国のセキュリティ等を踏まえながら理性的な検討を積み重ね決断していかなければならない。③「少子高齢化下の新産業ビジョン」については、技術と倫理の乖離の問題等議論された。

最後に、混迷する世界の課題を解いていける条件、資質を日本は多く備えており、「日本らしさ」を再確認し世界に積極的に発信していくべきとのまとめがあった。

□特別講演

テーマ:「日本人の技と心について」

講師:松岡 正剛 氏 編集工学研究所 所長

概要:氏が提唱される「編集工学」の手法により、日本を日本たらしめてきた「日本的方法」について、日本語が持つ数々の特徴をもとに解き明かし、日本の技術は日本人独特の美意識や倫理観に支えられた総合文化であるとした。最後にこれからの日本の技術開発の現場において日本らしさを活かす方法として、「日本語が持つ『デュアルスタンダード』の再評価」、「(技術導入段階における)『苗代』の活用」、「『うつろい』の重視」の3点を御提案いただいた。

□レディスプログラム



以上